

原田 雅文さん Masafumi Harada

知識科学系 創造社会デザイン研究領域
 佐藤研究室 博士前期課程2年
 大島商船高専 電子・情報システム工学専攻 卒業



分野の枠を超えて

ー 現在取り組まれている研究について教えてください。

現在は毛の形をした触覚センサーの開発の研究を行っています。人の接触動作としての「撫でる」という行為において、皮膚だけでなく毛の接触も考慮した接触センサーを作る必要があるのではないかとに着目し、毛と皮膚両方を感じ取ることができる触覚センサーの開発を行うことが研究の主旨となっています。

ー JAIST を選んだ理由を教えてください。

高専の指導教員がJAIST出身で、その先生から薦められて知りました。研究設備が整っていることや奨学金制度が豊富といったこともあります。「分野変更が可能」という点がJAISTを選んだ一番大きな理由です。JAISTでは、自分が研究して得たことも活かしつつ分野を変更することが可能でした。研究室を見ていくなかで、触覚センサーというテーマがおもしろそうな佐藤研究室に入りたいと思いました。

ー JAIST 進学にあたって受験対策はどうでしたか？

大受験対策についてはあまり苦勞を感じませんでした。高専時代もずっと研究に没頭していて、受験勉強に時間をかけていなかったため、指定校推薦制度があり専攻基準が小論文と面接だけという受験システムはありがたかったです。佐藤研究室の学生さんとコミュニケーションをとり、ヒントやアドバイスをもらいながら小論文を書き進めました。あらかじめ研究室とやりとりができていればそんなに心配はないと思います。

ー JAIST ならば高専の研究と JAIST 進学のための準備を並行して叶えられるということですね。実際に JAIST に入ってみて高専と違うところはどこだと思われますか？

一番違うのは、いろいろな研究分野の同期が数多くいるところです。高専は同期が数人しかいない上に研究分野も似通った人が集まっていたので、JAIST は様々な分野の方がたくさんいて、そういった方々と触れ合えることも楽しいです。自分とは全然違った分野の方もいて、わからないこともあるのですがそこから自分の研究に応用できそうなヒントを得ることもあります。

ー 日々の研究を行っていく中でここを選んでよかったと思うことはどんなことですか？

まずは設備が充実していることです。例えば論文を調べる時に JAIST は出版社と提携しているので多岐にわたる論文を無料で検索することができ、とても便利です。次にいつでも研究ができることです。高専の時は寮に住んでいて門限があり、深夜に研究はできませんでしたが、JAIST は自分の生活スタイルに合ったサイクルで自由に研究ができることにも満足しています。制度的な面では、給付金制度が充実しています。成績優秀者には授業料が半額、もしくは全額免除になる制度もあります。自分も全額免除していただき、経済面でも安心して研究に専念できています。

ー 原田さんの視点から見て知識科学系の特徴などを教えてください。

知識科学はメタ科学と呼ばれるのですが、新しい発明を思いつく上でのプロセスについて着目するという点が独特だと思います。例えば、新しいサービスの発案のためにグループワークの形式を用いるのですが、そのグループワークそのものをどうやって、どんな手法とするのか、どんなグループワークがうまくいくか、といった細かいことを深く掘り下げる授業があるのは独特だなと思います。情報系、例えば高専の授業の時も新しいサービスを考え開発する授業はありましたが、それは考えるプロセスではなく、どうやって実現するか、いかにして開発するかに注目することがメインの授業になります。知識科学系のプロセスに注目する考え方や授業が高専と違い、新しいと感じています。自分は今までこうやって考えていたんだなとメタ的な視点を得られ新鮮でした。

ー 研究をしていてやりがいを感じるポイントはありますか？

やはり成果が出た時と作ったものを実際にいろいろな人に使ってもらうこと、そしてフィードバックをもらうことが一番楽しくやりがいを感じます。学会でのデモ展示で「ここはいいですね」とか「ここはもう少し」などいろいろな人にフィードバックをもらえる機会がありました。嬉しくもあり、もっと改善していこうという気持ちになります。

ー 佐藤先生について教えてください。

佐藤先生は、学生との距離感が近く、ガンガン指導してくださるスタイルだと思っています。学会への参加や、研究に関してもどんどん提案して下さり、たくさんの機会を与えてくださいます。とても研究しやすい指導で自分には合っていると思います。研究していく中で、わからないことを先生に相談すると、何が違うのか納得できるように細かくアドバイスやコメントをくださり非常に助かっています。

ー 原田さんから高専生にアドバイスをお願いします。

自分の研究したい研究室の先生とコンタクトをとっておくことは大切です。JAIST は入ってからどの研究室に入るか決められますが、やはり入る前にある程度自分の進む方向性は考えておいた方がいいと思います。漠然とでも構わないので、自分はどんな研究をしたいのか考え、その研究をしている先生がいるのか調べ、その先生とコンタクトをとってやりとりしていると、自然と自分のしたいことが明確になり、目的も見えてくると思います。それは JAIST に入ってから必要なことだと思うのでお勧めします。あとは、分野を変えることに積極的な大学院なのでそういった気持ちがあるのなら、挑戦してみるのもいいのではないのでしょうか。

From Associate Professor

佐藤 俊樹 准教授

Toshiki Sato

知識科学系 創造社会デザイン研究領域

ー 「知識科学系」について教えてください。

知識科学系を教えている学校は JAIST しかないということが一番の特徴です。懐が広く、さまざまな分野の先生方がいて、コラボレートしながら新しいことに挑戦していくことができます。他に情報科学系とマテリアルサイエンス系がありますが、そちらの先生方もコラボレーションしつつ、学系の中でもコラボレーションしつつ、新しい「知」を混ぜた研究ができるところが、知識科学系の魅力です。情報系が好きな人も、コンピュータのアルゴリズムやハードに興味を持たれている方もいらっしゃるかと思いますが、「人」がコンピュータを操作して「人」が使いやすさを感じたり楽しさを感じたりするような、今後は「人」中心に考えていくことが重要だと思うのですが、そのような時にも知識科学はとても役に立っています。おもしろい体験や楽しい体験をゼロから創造する、それを実際に作って評価するといった研究を佐藤研究室はおこなっていますが、まさに新しいアイデアを考えるプロセスで知識科学を道具として使い、アイデアを考えるプロセスの時点で知識科学を使って分析するといろいろな要素が見えることがあります。そんな時、知識科学の重要性やおもしろさを実感します。知識科学はいろいろな先生がいていろいろな分野があると思いますが、どこの研究室に入ってもいろいろな知識科学のやりようがあり非常におもしろいと思います。そして JAIST は専攻を変えることを推奨している大学院です。新しい研究、様々な研究室を見ていただきたいです。その中にきっとどこか自分に引かれる研究室があると思います。ぜひ飛び込んできてほしいなあとと思っています。

ー 佐藤先生から見た原田さんの印象を教えてください。

原田くんは言えませんが理解する、非常に優秀な学生さんだと認識しています。キャラクターもおもしろくて研究室の学生さんともよく楽しそうに話しています。一人で研究するというよりは、複数の人とコラボレートして研究することに非常に積極的に取り組んでいます。佐藤研究室では他の大学の学生さんと一緒に研究することにチャレンジしています。JAIST は大学院大学なので学部生がいないのですが、私の研究室は他の大学の学部生をプロジェクトのメンバーに加えて、一緒に研究を進めていくこともします。原田くんはそういう新しい試みにも参加して、後輩ともどんどん一緒に話をして研究を進めていく、あまり他に例を見ない非常におもしろい学生さんです。今後はぜひ、自分の納得するおもしろさを追求し続けてほしいと思います。そしていつか JAIST に帰ってきてほしいですね。